

日本社会事業大学創立80周年・「社大の未来に、想いをつなぐ」



日本社会事業大学は、2026年（令和8年）11月に創立80周年を迎えます。第二次世界大戦後1946年（昭和21年）11月9日に創立された日本社会事業大学。約80年間で18,000人を超える同窓生ネットワークを築いています。創立80周年を契機として多くの同窓生が繋がり、母校悠久の未来に向かって歩みを刻みましょう！

同窓会 記念事業 【企画概要】

○日本社会事業大学80年

～社大の発展とともに歩んだ同窓生の活動記録～

創立から現在まで日本社会事業大学の福祉教育に携わった80人の証言集を作成します。

■ドキュメント「日本社会事業大学物語 餓ひょうの野 社会の福祉誰が任ぞ」



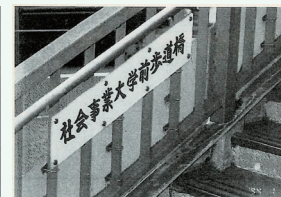
農村要保護世帯調査（昭和22年）



山村調査



オリエンテーションキャンプ・榛名



社会事業大学前歩道橋

【第1部】日本社会事業大学と私

【第2部】社大教育と卒業生の実践の軌跡

【第3部】「社会の福祉誰が任ぞ」・「忘我の愛と智の灯」

各年代の同窓生の実践活動、大学とのつながりなど社大に対する熱い想いといにしえのメモリアル写真が満載された一冊です。

～実行委員会卒業生代表企画～

○ゼミ・寮生・サークルなどが繋がる集いを開催します

「ホームカミングデー」は、卒業生をお招きし、大学祭などを楽しむとともに、恩師や友人と再会する場としていただく交流イベントです。2024年6月より実行委員会の“在学生メンバー主体”となってホームカミングデーを実施したいという企画が始まりました。在校生代表メンバーは“やる気”と“元気”の両方とも満タンです。

～実行委員会在学生代表企画～

卒業生
集まれ！

「ゼミ・寮生・サークル等の
ホームカミングデー交流会」の輪で
繋がりましたよう

社大
同窓会

2026
vol. 97

同窓会×大学
パートナーシップ推進

予告 2026年10月24日（土）

「卒業生集まれ！「ゼミ・寮生・サークル等のホームカミングデー交流会」を開催します」

※大学第55回大学祭（社大祭）にて

「80周年記念コンサート」など楽しい交流イベントを企画中

○企画例

80周年記念コンサート・参加者交流会

社大祭プログラム参加・キャンパス見学会

ゼミ会 寮生同窓会 サークル交流会 同期会

※詳細が決まりましたら、順次ゼミのグループライン・同窓会報・ホームページなどでご案内します。

ゼミのグループラインなどのご案内



卒業生の皆さま、ぜひお越しください！
エネルギーに活動する現役学生がお待ちしております

10月25日・26日 第54回社大祭

今年度の学園祭テーマ

「あつまれ 社大の森」



ゆるキャラじゃんけん大会 清瀬市・東久留米市とコラボ



こんにちは、軽音楽サークルです！



オープニング前の実行委員打合せ



生け花作品展示／華道部チロル



映画上映会
『生きて、生きて、生きる。』



縁日とポスター展示



キックボーリングとタピオカミルクティーの出店

同期会開催報告

準硬式野球部 伊藤博胤さん追悼試合・偲ぶ会

11月2日

大学グラウンド・学生食堂



2025年5月にご逝去された伊藤博胤さん(新関東大学準硬式野球連盟名誉会長・野球部OB・元野球部部長・元大学学生課長)の追悼試合および偲ぶ会、併せて令和7年秋季リーグ戦納会を開催しました。

(準硬式野球部主将:橋本成騎)

1979年度生27名が 原宿BlueGardenに集合！

10月19日



原宿坂下口から徒歩5分ほど、今回会場となったBLUE GARDENは、テラス席もある開放的なイタリアンレストラン。このお店のリラックスできる雰囲気も手伝って、参加者は自由に席を替わりつつ、お互いの近況報告に昔ばなしにと、花を咲かせることができました。

(幹事:小田中)

11月4日

社大10期有志会 旬魚左阿彌 (さあみ)

名鉄店(名古屋駅前)

学部10期同期会は2018年まで2年毎開催が2020年はコロナ禍で延期となり、2022年11月鹿児島市での同期会で解散しました。以後随時有志会として開催することになり、2023年5月横浜市で開催しました。今回は同窓会の岐阜県支部長阪野さん発案で名古屋市での開催を呼びかけた結果、想定外の16名参加で三次会まで続きました。継続要望があり、来年宇都宮市開催となります。(幹事:内田)





2026/7/11

同窓会×大学による 社会福祉セミナーin栃木

母校との連携による社会福祉セミナーを開催します。どなたでも参加いただけますので、ご友人、職場の皆さまなどお誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

【テーマ】 **2030年に向けた福祉を取り巻く情勢と課題**
～障がい者と地域社会の真の共生をめざして～

セミナー

基調講演

「これからの時代のソーシャルワーク」

～さまざまな福祉ニーズに対応できる
地域共生社会の実現をめざして～

永島 徹 氏

日本社会事業大学
福祉マネジメント研究科特任准教授
NPO法人風の詩理事長



活動紹介・問題提起

「障害者福祉活動実践の最前線から見えるもの」

●コーディネーター 曾根 直樹 氏

日本社会事業大学社会事業研究所客員教授

I. 社会福祉法人 すぎのこ会(栃木市)

児童期から高齢期までの
ライフステージに応じた福祉サービス

II. 社会福祉法人 パステル(小山市)

障がい者の将来の生活設計をどう考えるか

III. 社会福祉法人 同愛会(那珂川町)

人と人との関わりを原点に「福祉」の価値や
役割を共有する



座談会

すぎのこ会・パステル・同愛会(活動紹介メンバー)
進行～曾根コーディネーター
助言 基調講演者(社会福祉士事務所風のささやき)
「親亡き後の具体的な支援事例から」

実践報告

「“私たちのオレンジリボン運動”について」

日本社会事業大学ボランティアサークル「オレンジクレヨン」

日 時

2026年 7月 11日(土) 13:30～16:30

会 場

ライトキューブ宇都宮 4階会議室

栃木県宇都宮市宮みらい1-20/JR宇都宮駅東口改札口から徒歩2分

開催形式

会場とオンラインの両方で開催 会場参加50名/ZOOM参加50名
参加費無料、どなたでも参加できます。

お申込方法

下記の「お申込フォーム」よりお申込みください。

<https://fs220.xbit.jp/b646/form2/>

※お申込みいただいたメールアドレスにZoomによる

オンライン参加のためのURL又はご来場の案内等をお知らせします。

「同窓会HP」からも申込みできます。⇒<https://jcsw-alumni.com/>

お申込期間

令和8年2月15日から6月30日まで

FMラジオ局NACK5
(79.5MHz)で日本社会
事業大学通信教育科の
CMが放送されました



スタジオでの収録風景

国家試験合格率トップクラスの
日本社会事業大学通信教育科では
現在、説明会開催・出願も受付中！

社会福祉士 養成課程 精神保健福祉士 養成課程 社会福祉主事 養成課程

🔍 日本社会事業大学 通信

お問い合わせ
日本社会事業大学通信教育科
〒204-8555
東京都清瀬市竹丘3-1-30
TEL 042-496-3200
<https://tsushin.jcsw.ac.jp/>

ワンダーフォーゲル部
創立55周年記念パーティー

Y R イベントホール (池袋)

11月24日

ワンダーフォーゲル部は1970年7月20日に創設されました。令和7年11月24日、ワンゲル創立55周年を記念して、OB会主催でパーティーを開催しました。参加者は28名。創立メンバーも多数参加され、旧交を温めあいました。(幹事:菊池)





社大の魅力を もっともっと伝えたい！ より親しみやすく分かりやすい 学生目線のプレゼンテーションでお迎え

日本社会事業大学では2025年にオープンキャンパスを7回開催(3月・5月・6月・7月・8月2回・9月)。2026年度入試ガイダンス、各学部の紹介及び模擬授業のほか、オープンキャンパス委員によるキャンパスツアーなど多彩なプログラムを用意し、受験生のほか高校1、2年生や保護者にも好評です。(以下、大学HP・インフォメーション等より)

□大学オープンキャンパス委員の役割と活動

大学のオープンキャンパス委員は、高校生や保護者の方々が「日本社会事業大学に入りたい!」と思えるようなイベントを企画・運営する学生主体で活動しています。主な役割は、高校生の進路選択をサポートし、大学の魅力を伝える!ことです。

学生目線での企画・運営

高校生に近い視点でイベントを企画し、高校生が知りたい情報を分かりやすく提供することに力を入れています。例えば、大学生の日常生活など、資料だけでは分からないリアルな学生生活を紹介することも好評です。

私たちのお仕事紹介

キャンパスツアーのガイド
：大学の施設を案内しながら、学生ならではの視点で紹介します。

受験生応援企画～合格体験談～：なぜ日本社会事業大学を選んだか、聞いてよかったという声が多いプログラムの一つです。



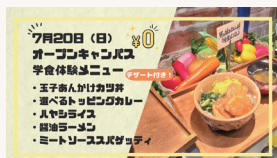
学生なんでも相談室

高校生の悩みや疑問に答え、大学生活について相談に乗ります。受験勉強、学生生活、ボランティア。その他／高校にはない面白い大学の授業／サークルや課外活動／寮生活、一人暮らしの生活／学食やお昼休みの過ごし方など



□オープンキャンパス委員が選ぶ! オープンキャンパスの見どころ

豊富なメニューから選べる! 学食体験



大学生活をイメージしやすいよう、学食体験の場を提供します。

「シャダイニング」の学食は美味しいと評判です!私も大好き!ぜひ食べてみてくださいね!



「福祉リーダーが語る共生社会デザイン～ホームレス支援の最前線から～」

キャンパスツアーでは、来場者の皆さんが介護実習棟の設備に驚かれています!

模擬授業を体験してみよう!

参加者が興味のある分野を体験できるよう、教員と連携しテーマを決めます。



□オープンキャンパス委員からのメッセージ

代表 藤縄 晴渚(ふじなわはるり)福祉計画学科2年

キャンパスツアーでは、単に大学の魅力を伝えるだけでなく、自分自身がこの場所で得た多くの経験や体験を交えて説明し、積極的にコミュニケーションをとることを心掛けています。ツアーが終わった後、参加者の方から「すごく分かりやすかったです!」「この大学に進学したいという気持ちが強くなりました!」などといった言葉をいただいたときは、やりがいとともに、大きな達成感を感じます。例年の在学生企画「合格体験談」に加え新たな企画を実施することができ、有意義な活動ができたとともに、代表の仕事を通して自分自身も成長することができました。

鈴木 琉偉(すずきるい)福祉援助学科1年

オープンキャンパスでは、日本社会事業大学と社会福祉分野に興味を持って参加してくれた高校生たちが楽しそうに校内を巡る姿がとても印象的です。キャンパス委員としてオープンキャンパスに参加するのは今年が初めてで、慣れないことも多く運営は大変ですが、約40名のメンバーで相談し、挑戦してみて良かったです。オープンキャンパスは2026年も社大を知ることができる企画を実施しますので皆さんぜひ足を運んでみてください!!



オープンキャンパスを通じて、参加者の皆さんが、進路を考える上で何かしらのヒントを得てくれていれば幸いです!

□入学予定者向けイベント『ちょっばや』/学生生活向上委員会

毎年3月、公認サークル『学生生活向上委員会(旧生協組織部)』は、『ちょっばや』と呼ばれる新入生向けのイベントを行っています。「ちょっと早めのお友だち作り」を目的として同級生や先輩との繋がりや、ミニゲームの企画により新たに始まる学生生活への不安や疑問を解消します。毎年『ちょっばや』がきっかけで、というエピソードを新入生から多くいただいております。私たちの活動の励みとなっています。

【大学アリーナで】



2024年3月22日「さあみんな!!ちょっばやに行こう」

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

誰もが学びやすいキャンパスを目指して

大学における障がい学生支援の取り組み

高校卒業者の大学進学率が6割近く(59.1%)になり、また、障害者差別解消法の改正で私立大学にも「合理的配慮」が義務化されたなか、障害がある高校生にとっては依然として進学にさまざまなハード

ルがあると言われている。障害者の大学進学に際して、どのような困難があり、学校現場や生徒たちはどのように向き合っているのか。大学における障がい学生の支援体制について紹介する。

障害者の支援体制の重要性・背景等

日本では2016年4月施行の障害者差別解消法で、障害者にとっての社会的障壁を、希望に応じてできる限り取り除く「合理的配慮」が国立大学を除く「合理的配慮」が国立大学義務化され、障害があっても大学などの高等教育機関で学びを続けられるよう支援する体制づくりが進められている。

また、2024年4月に改正「障害者差別解消法」で私大にも対象が拡大され、負担にならない範囲で障害者の要望に対応する「合理的配慮」が全ての大学で義務化された。

「大学進学」の選択肢が広がる」と期待される一方で、教職員や学生への周知が課題となっている。

◆障害者差別解消法Ⅱ

2016年4月施行。行政機関や民間事業者に対し、障害を理由とする差別を禁じた。「合理的配慮」の義務付け対象は当初、国公立の学校を含む行政機関にとどまっていたが、2024年の改正法で私立学校などの民間事業者にも拡大された。

障害のある学生の現状

日本学生支援機構(JASSO)は2025年8月8日、2024年度(令和6年度)大学・短期大学・高等専門学校における障害のある学

生の修学支援に関する実態調査の結果を発表した。調査期日は2024年5月1日現在。全学校数1169校から回答を得た(回答率100%)。

2024年5月1日現在の障害学生数は、前年度比2631人減の5万5510人。全学生に占める障害学生の在籍率は1.71%で、前年度より0.08ポイント減少した。(※なお、2024年度調査より、

障害を理由とする差別的解消の推進に関する法律の改正を踏まえて、調査の内容を大幅に見直している。これにより、基本用語の定義、障害種の区分、その他調査項目の一部が変更されていることから、2024年度の

結果は2023年度の結果と単純に比較することができない点に留意が必要)

また、同支援機構によると、2023年度に大学や短大などに在籍する障害学生は5万8141人で、10年前の4倍以上に増加。支援担当部署を設置する動きも進み、同年度の調査では3割近くが「専門部署・機関を設置」と回答した。

大学の取り組み事例・読売新聞オンラインより(2024.12.30)

熊本学園大(熊本市) 2016年度に「インクルーシブ学生支援センター」を設けた。修学支援などを行う「しよ

どが連携して学生をサポート。支援機器の貸し出しや試験の別室受験などの配慮が受けられる。学生サポーターは、講義で要約筆記などを担う有償ボランティアで、24人が登録する。近年は毎年度、約80人の障害学生が在籍している。発達や精神に障害のある学生が増えて特性も多様化しており、スタッフを増員して対応。相談室には臨床心理士などを配置している。

九州大(福岡市)

「インクルーシブ支援推進室」を設けて、制度の整備や啓発活動に取り組んできた。同室の担当教員は「配慮する立場の教職員と、相互理解する立場である障害のな

い学生に対し、どのように理解を広めるかが課題」と話す。障害学生の支援を担う学生「ピアサポーター」の育成にも力を入

れる。今年は4月の入学式で初めて学生が手話通訳をしたことで関心が高まり、例年の倍の約20人が新たに加わった。

九州・沖縄の国立11大学で連携障害学生支援に関する連携組織をつくって情報交換を続けており、授業中にパソコンや手書きで要約筆記する「ノート

テイカー」の育成を課題としている。今年は、九州大のピアサポーターの学生が、他大

学の学生に指導する講座を開催。今後、各大学で連携し、講義をオンラインでつないで他大学の障害学生の支援を行うことを検討している。

日本社会事業大学の取り組み

日本社会事業大学では、これまでより充実した学生生活を送れるよう学生相談窓口の設置に取り組んできた。現在の学生相談・支援体制は以下のとおりである。

主な内容	担当	窓口
学生生活全般	*1 キャンパスソーシャルワーカー	学生支援課
心の健康に関すること	*2 カウンセラー	学生相談室
障がいのある方の学修環境の支援	*3 学修環境コーディネーター	*4 障害学生支援室

- *1 2009年(平成21)9月～
- *2 1998年(平成10)10月～ 精神保健カウンセラー
- *3 2020年(令和2)3月～ 障がい学生支援コーディネーター
- *4 2024年(令和6)4月～ 障害学生支援に関する基本方針(規則)を定め「障害学生支援室」を設置

■これまでに至る様々な取り組みについて

二神 麗子さん(社会福祉学部 福祉援助学科 講師)のコメント

社大では2005～2019年に障害のある学生への支援を「障がい学生支援組織「CSSO」」が中心になり活動しており、私もこの活動に携わっていた。障害のある学生に対する移動助やノートテイク(要約筆記)などの授業支援が具体的な活動内容であった。しかしながら、大学側の組織的なサポート体制は整っておらず、この活動は学生の自主性に支えられた取り組みが中心であった。

■現在行っている活動

学修環境コーディネーターは2名体制で運営しており、聴覚障害学生担当とそれ以外の障害全般担当で役割が分かれています。

聴覚障害学生については、主に情報保障、教育補助機器の活用などにより、他の学生と平等

に学修できるよう支援しています。情報保障は主に、手話通訳、PCテイク、Googlepixelの音声認識を使った文字通訳支援など、授業の形態に合わせて手配しています。また、こうした情報保障にご協力いただける学生支援者も随時募集しています。もちろん、当事者学生からの相談対応や面談なども定期的に行っています。聴覚障害学生以外については、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害などのある学生の修学や学生生活での困り事、合理的配慮や支援、工夫などについて相談に応じています。面談は個室でゆっくりお話しをお伺いいたします。



(左から)高木萌花さん・所智子さん

■スタッフのコメント

・学修環境コーディネーターの高木です。障害・病気のあるなしに関わらず、学習面でお困りのことがありましたらいつでもお尋ねください!また、年に数回「ランチ交流会」という学生同士の交流会を開いておりますので、そちらもぜひご参加お待ちしております。

・聴覚障害学生担当の所です。聴覚障害は見た目ではわかりにくく、理解されにくい障害です。聞こえの程度や育った環境によって、必要な支援は一人ひとり異なります。私自身も当事者として、聞こえない学生さんに寄り添いながら、よりよい支援を一緒に考えていきたいと思います。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

障害学生支援室(管理棟1階)

スタッフ

学修環境コーディネーター2名
(聴覚障害・障害全般)

サポーター
(学生支援者)

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

同窓生が活躍する福祉現場の最前線から

～OB・OG応援メッセージ～

同窓会の『福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会』に参加いただいている旭児童ホームを訪問しました。

<https://www.asahijidou.org/>

小規模ケアユニット＆分園 地域で子育ての相談と応援

1984年(昭和54年)4月定員20名の養護施設「仲愛園」を横浜市保土ヶ谷区にオープン。昭和61年法人及び施設を「旭児童ホーム」に改称。現在、旭児童ホームは横浜市内に、児童養護施設を2カ所(旭、川和)、児童家庭支援センターを2カ所(おおいけ、かわわ)運営しています。児童養護施設では、30年来、約5人前後の小規模グループケアの実践に長く取り組んでおり、ケア単位を小規模化すること、また各人が専門性を備えたチームとして子どもの養育を行う体制を整えています。

Q.皆さんのプロフィールをお聞かせください



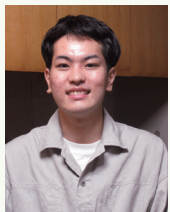
教員から社大へ編入

菅原香南さん 愛媛県出身、2022年卒。前職で学校の教員をしており、家庭のことで悩みや傷付きを抱えた児童・生徒に多く出会いました。教員という立場上家庭には関与できないこと、自分の不勉強さへのもどかしさから転職を決め、ことも家庭福祉について学びたいと思い社大に編入しました。



アルバイトは、飲食店ホール、学童保育など

近藤歌乃さん 秋田県出身、2024年卒。高校卒業を機に栃木県の短大に入学しました。短大時代はコロナ禍真っ只中で、興味のある子ども分野で実習することは叶いませんでした。子どもとかわった経験も乏しく、「このまま卒業して就職できない、自分の興味のある分野をもっと詳しく学んでみたい」と思い先生に相談したところ、社大編入を勧められました。短大・大学時代は、飲食店のホール、イベント警備スタッフ、学童保育などのアルバイトをしていました。黙々と作業をするよりは人と関わる仕事を選んでいたような気がします。



行動力自信アリ?

花輪亮佑さん 神奈川県横浜市出身、2025年卒の就職1年目。在学時は生徒の居場所と学びを支援する学生有志団体「ステップタイム」の立ち上げに参加。学祭の実行委員としても精力的に活躍。ゼミは賛川信幸先生で卒業研究は「横浜型児童家庭支援センターが行う支援についての考察」でした。

Q. 入職された理由や仕事の内容は?

菅原さん 在学時、ゼミの先生に勧められて旭児童ホームでアルバイトをしました。各分園のホーム担当職員は数日間連泊するため、こどもたちは特定の職員のもとで生活を送ります。施設といえどもいつらつしやい「おかえり」が言える環境、その日の出来事や感情を翌日以降も継続し共有できることもと職員の関係性に魅力を感じ、入職しました。最初は同じ法人の中で川和児童ホームに配属された後、現在は旭児童ホームで働いています。川和も旭もこどもと生活を共にすることの意味を考え続け、こどもの心身の健全な成長を第一に考える職員ばかりで、日々勉強です。

近藤さん 「子どもにかかわる仕事をした」という漠然とした考えはありましたが、具体的な何をしたいのかわからず、卒業までの期限も迫り、とても焦っていました。ゼミの先生に相談したところ、いくつかおすすめてあげてください、その中から旭児童ホームを選択しました。ゼミの先輩や社大の先輩に所縁があったことも入職理由の一つです。アルバイトの過ごし方ですが、アイドルとディズニーが好きです。ライブや舞台に当たればアイドルを応援に行きますし、ディズニーは2カ月に1回程度遊びに行きます。友達とご飯や買い物に行く事もよくあります。二日連続で休みがあったら、一日は出掛け、一日は自宅で休むことが多いです。家でのんびりすることも好きです。

花輪さん 大学2年生の時に、アルバイトとして関わりはじめました。学生だった私を、旭児童ホームは「できる・できない」ではなく、ひとりの人間として受け止めてくださいました。その経験を通して、自分自身が少しずつ成長できる場所だと感じたことが、入職の大きなきっかけです。ホームでは子ども

も大人も、本当にいろいろな背景や思いを抱えて生活しています。日々の暮らしのなかでぶつかる壁に対して、どう折り合いをつけるか、どう乗り越えていくのかを、一緒に真剣に考え向き合える場所であることが、旭児童ホームの一番の魅力だと感じています。

Q. 心がけていること、やりがいなど

菅原さん 先輩から言われた言葉ですが、「その子をその子自身として見ること」。自分も人間ですので、先入観や偏見、その場の感情に振り回されることはよくあります。その子とは関係のない自分の中にあるものにいきなり気付けるか、そのモノがこどもを見る目の邪魔をしていないか。まだまだ振り返り回されてばかりですが、年齢や成育歴に引っぱられず、その子自身を見つめられるよう心がけています。

近藤さん 「この子どもはここの子ども」というふうに、ひとりひとりがどんな子どもなのか捉えて、向き合うようにしています。それから、子どもの気持ちや整うまで待つことも意識しています。その子のペースを急がさず、その子が動きたいタイミングで、やりたいことをサポートできるように日々模索しています。

Q. 仕事の魅力やこれからの目標など

菅原さん 今自分のしている仕事やこどもとの向き合い方が本当に正しいのか、意味があるのか、どこまでやればいいのかと、日々悩むことばかりです。だからこそ、こどもの10年後や20年後を見据えて挑戦できるところが旭で働く魅力だと思っています。これからは先輩方やこどもたちに学ばせてもらいながら、できるだけ長くこどもたちと付き合っていける職員になりたいと思います。

近藤さん ホームごとに雰囲気や全く違うところが難しいですが、同時に面白いと感じるポイントもあります。

Q. 同窓会の『OB・OGとの交流会』に参加されてのご感想・意見をお聞かせください

花輪さん 学生時代にも参加させていだきましたが、この交流会の一番の魅力は「全員が社大の卒業生である」という安心感だと感じています。他の就職セミナーで

は少し緊張してしまうこともありますが、この会では自然体でお話することができました。この交流会をきっかけに、是非施設見学にも足を運んでいただけたら嬉しいです。そして、数年後にまたこの場で同期と再会し、お互いの近況を笑顔で話し合えるようになったらと思っています。

在校生への応援メッセージ!!

菅原さん 「失敗を恐れず、さまざまなことに挑戦!」

私が在学した2年間はコロナ禍真っ只中でしたので、対面授業も多くはなく、サークル活動も停止していました。それでも、先生方や同じゼミの友人たちから得られたものは、今の自分の励みになっています。失敗を恐れず楽しみながら、さまざまなことに挑戦してさまざまな人と出会い、自分の道を見つけてほしいと思います。

近藤さん 色々な人に会って、楽しい大学生活を

何事も無理はしすぎないでください。たくさん遊んでも良いと思います。好きなところに行くと、好きなことをして、色々な人に会って、たくさん楽しむことが大切。その中から自分のやりたいことが見つかるかもしれません。健康第一で、楽しい大学生活になりますように。

花輪さん 人となりが、自分自身を大きく成長させてくれました

4年間の学生生活のなかで、さまざまなことにチャレンジできた時間は、今でも大切な思い出として心に残っています。授業や実習だけでなく、仲間との何気ない時間や、いろいろな人となりが、自分自身を大きく成長させてくれました。

在校生のみなさんも、是非いろいろな場に積極的に参加してみてください。思いがけないご縁や出会いが、きっとこれからの道を広げてくれると思います。



2026年創立80周年 母校のさらなる発展に向け取組を推進

11月15日

80周年記念事業実行委員会【第4回】

記念事業の主要項目などを議題として意見交換と情報共有を行いました。

- 「ゼミ・寮生・サークル等のホームカミングデー交流会」の計画内容について
- 同窓会記念冊子の仕様概要について
- 大学の80周年記念事業(情報共有)



交流会企画への卒業生・在校生の積極的参加に向けて意見交換



在校生・卒業生が一体となって企画します

支部活動報告

北海道支部

25年度道同窓会秋季セミナー・懇親会



日本社会事業大学北海道同窓会主催秋季セミナー

令和7年9月27日。日本医療大学月寒キャンパス。大橋謙策名誉教授の基調講演「地域共生社会政策における重層的支援体制整備事業とコミュニティーソーシャルワーク」ほか。(支部長 瀬戸雅嗣)

福島県支部

支部セミナー・総会・懇親会

令和7年11月22日。日本キリスト教団小高伝道所ほか(南相馬市)。

「山本さとしコンサート&鼎談〜歌と語りで祈るふくしまの地域再生、復興〜」
地元住民や県内・県外のふくしまの復興に関心を寄せる方々17名参加。山本さんの東日本大震災と福島原発事故による避難を余儀なくされた浜通りの住民の方々に寄り添う歌とトークに、深い感銘と感動をいただきました。



(支部長 菊地恵子)

岩手県支部

講演会・支部総会・懇親会

令和7年7月5日。ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング。日本社会事業大学社会福祉学会「木田賞受賞」記念講演 社会福祉法人みちのく大寿会野田大介理事の講演。右京昌久支部長が交代。



(支部長 中村伸之)

宮城県支部

支部役員会

令和7年11月20日。会員の近況報告。木村信幸支部長が交代。



(支部長 堀口頼章)

栃木県支部

支部総会・懇親会



・令和7年8月31日。ホテルニューイタヤ。
「社会福祉セミナーin栃木」等意見交換会
・令和7年11月8日。社会福祉法人パステルCSWおとめ。
同窓会社会福祉セミナーの開催計画について意見交換。県内社会福祉法人パステル、すぎのこ会、同窓会が参加

(支部長 檜山浩)

熊本県支部

福祉公開講演会「熊本の福祉の源流、先人たちに学ぶパート2」

令和7年11月8日。社会福祉法人慈愛園パウラスホーム地域交流スペース。潮谷愛一氏、義子氏ご夫妻による講演「モードパウラスと慈愛園の軌跡と福祉の未来」



(支部長 谷口千代子)

抽選で3名様に

『障がい者と地域社会の真の共生をめざして』BOOKプレゼント!

石橋須見江さん(学部2期1962年卒・大学院博士前期20期2010年卒/障がいのある子どもをサポートしたい---高校生のときに抱いた想いを60年以上もち続け、1998年社会福祉法人パステルを創設。地域に溶け込み、地域の役に立つ全国から注目される社会福祉法人の実例)の最新著書(幻冬舎、四六判195ページ)



抽選で5名様に

ココカフェ蓋付き真空二重マグカッププレゼント

学生自治会による卒業記念品(JCSW入り)〈ホワイト〉

ご希望者は住所・氏名及び「BOOK」と「ココカフェ」の希望別を次のあて先までご連絡ください。

〈郵便の方〉 〒204-8555 清瀬市竹丘3-1-30
日本社会事業大学同窓会
〈FAXの方〉 042-496-3051
〈E-mailの方〉 kouyu@jcsw.ac.jp

“母校・在校生への支援”のため 会費納入にご協力を

同窓生の皆様には会報に同封されている「同窓会年会費」納入用紙をお使いいただき、同窓会の学生教育支援などへのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

同窓会会長 竹田幹雄



スマートフォン決済。バーコードをアプリでかざすだけ!

今までと同じ振込用紙で郵便局やコンビニでお振り込みされる他、スマートフォン決済ができます。※「スマートフォン(アプリ決済)」をご利用の場合は、振込用紙裏面をご確認の上ご利用ください。

(終身会員制度について)

2011年度から「終身会員」(5万円)が設けられ、納入時満年齢60歳以上の方は、「年会費」と選択ができます。「終身会員」として納入される方は、郵便局・ゆうちょ銀行の払込取扱票と払込書兼受領証の金額3000を2本線で抹消し上段に50000と訂正し、「認印」を推して下さい。コンビニエンスストアではお取り扱いできません。

「職員満足」なくして「利用者満足」なし



社会福祉法人 東京聖労院

<https://www.seirouin.or.jp/>



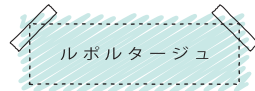
小滝 一幸
(こだき かずゆき)

学部26期
(1986年卒)

1963(昭和38)年3月22日埼玉県所沢市生まれ。1986年日本社会事業大学社会福祉学部・社会事業学科卒業。立川の特別養護老人ホーム生活指導員等勤務を経て、1995年に社会福祉法人東京聖労院高齢者施設開設準備委員として入職。2006年4月常務理事就任。(2000年-特別養護老人ホーム清雅苑施設長)社会活動:清瀬市介護保険事業計画策定委員長、地域包括支援センター運営協議会副会長、日本社会事業大学を囲む会委員。現在清瀬市社会福祉協議会理事。日本社会事業大学同窓会副会長。日本社会事業大学評議員他。

清瀬市で高齢者などの支援に関わられていますか?

東京聖労院は、1928(大正15)年東京浅草での生活困窮者の救済事業が始まりました。開設以降、浮浪者・生活困窮者の救済事業、戦後には生活保護施設である更生施設(後に宿所提供施設に変更)、母子寮の経営、1996年以降は高齢者福祉に転じ、2003年からは児童関係の事業を加えて今日に至っています。



ルポルタージュ

現在は都内4つの区市(清瀬市、小金井市、北区、港区)で特別養護老人ホーム等を、2つの区(北区、港区)で児童館、学童クラブ等の運営をしています。

現在に至るまでの私の経歴と現状について

私が社大に入社したのは1982年のことでした。これらの4年間、大学生活をエンジョイしようと意気込んで入学したものの、同級生の志の高さに衝撃を受け、挫折した記憶は今でも鮮明です。当時、これはとても自分みたいな者が四年間過ごせる場所では無いと感じたものでした。当然のことながらひと月も経たぬ間にドロップアウト。憧れのキャンパスライフは一転して暗黒時代に突入しかけたのでした。

そんな私の大学生活にとって大きな転機となり、その後の人生にも大きな影響を与えてくれた出来事。それは野球部入部、そしてそこでの先輩・同期・後輩との出会いでした。大学での自分の居場所をようやく発見し、地に足のついた大学生活が始まりました。暗くなるまでボールを投げ、打ち、追いかけて、一部昇格を目標に共に過ごした多くの時間、尊敬する諸先輩の後ろ姿を追い、同級生・後輩と切磋琢磨した日々は忘れがたい思い出です。卒業後も途切れることなく続いている先輩・同期・後輩との関係。最近では皆さん年齢的にも余裕ができたのでしょうか、その輪はともかく賑やかになり、お会いする機会も増え、再会すればあつという間に四十年前にタイムスリップした懐かしい・暖かい時間を過ごすことができます。

一方、本業である学業は残念ながら遂に四年間、目覚めること無く過してしまいました。私にとっては授業内容があまりにも難しく、理解できなかつたことが一番の原因だったとは思いますが、今思えばもう少し頑張れなかつたものかと後悔もしています。そんな中で唯一、自分でも少しは勉強したかと思えるものが、今の仕事につながる高齢者福祉に関する分野でした。当時は「老人福祉」と呼んでいたように思います。卒業後、たつた一つの主体的な学びの領域である特別養護老人ホームに就職、介護と相談業務を経験し現在は施設管理者と法人常務理事を兼務し施設運営と法人経営に携わっています。落ちこぼれた私が職種・立場は変わりましたが卒業後四十年もの間、高齢者福祉の領域で仕事が出来たことは不思議でもあり幸せなことだと感じています。

東京聖労院が目指しているもの

1996年以降高齢者福祉事業に転じさらに2003年からは児童関係事業へ

間もなく100年に至る当法人の歩は、常に「時代時代の社会福祉課題に」「無私無欲」「先駆性」「開拓性」の精神で果敢に取り組み、公の利益に資することを存在意義とした活動の歴史です。1990年代の東京都内の福祉ニーズを振り返れば、高齢・児童福祉への業種転換という舵取りは法人のDNAに基づく自然な流れだったと感じています。

地域の福祉向上に積極貢献

法人直営の清瀬市・小金井市の各拠点では、地域で不足する資源があれば、新規事業所の立上げや事業受託を進めてきました。その結果が現在のサービス提供体制に繋がっています。現在、両市では特養・短期入所・通所介護・訪問介護・居宅介護支援、5つの介護保険事業と行政の委託を受けた地域包括支援センター、高齢者住宅管理等を運営しています。また各拠点では地域ニーズに応じた独自の公益活動に取り組んでいます。

「職員満足」なくして「利用者満足」なし

業種転換を成し遂げた先代理事長がこたわった言葉です。仕事を通し自己実現を追い求める職員だけが、ご利用者に満足いただける支援を実践できる」という考えが根本にあったものと受け止めています。

今後の活動と抱負などについて

もちろん四十年もの長い年月、この仕事を続けることが出来たのは、大学時代から支えてくださった大勢の方々のおかげです。野球部の皆さん、特に元野球部部長で学生課長の伊藤博胤同窓会顧問(もう時効かと思いますが顧問がいっしょにしなければ卒業そのものが危うい状況でした)。大学卒業のために数えきれない援助をいただいた同級生。勝手に恩師と思っている三浦文夫先生(第5代学長、学生時代は授業とゼミでは殆どお会いしませんでした)、明治通りの向こう側にある商店街の飲み屋では、しばしば課外授業をしていたいただきました。卒業

後に一度だけ転職した時偶然ですが先生が法人の理事を務めていて再会。足りない私に改めて熱心なご指導をくださり、ご自宅にも何度もお邪魔させていただきました。また、当時はマイノリティだった高齢者福祉を専攻した数少ない同級生。卒業後はずっと目標にして頑張ってきました。相談にのっていただいたことは数知れず、今なお目標であり続けています。

社大に入社し、数多くの方々のお力をいただき、福祉のころを採しながら、ここまでたどり着きました。気持ち。付けば仕事のゴールはもう目の前。残された時間を全力で駆け抜けたと思います。



卒業式 三浦文夫先生と

母校社大への応援メッセージ!!

近年は、福祉制度が複雑化し、支援の技術も高度化してきていますが、こうした制度や技術に詳しいだけの人ではなく、主体的に実践できる人材が現場には必要です。このような状況にある中で社大が果たさなければならぬ役割は益々重要になっているのではないかと考える今日この頃です。

